

新年のご挨拶



大阪府信用金庫健康保険組合

理事長 須戸 裕治



新年あけましておめでとうございます。加入者ならびにご家族の皆さまにおかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より当健康保険組合の事業運営につきまして、多大なるご理解とご協力を賜っておりますことに、心より感謝を申し上げます。健康保険組合を取り巻く状況は年々厳しさを増しており、2025年には団塊の世代がすべて後期高齢者となることで、高齢者医療に対する拠出金負担のさらなる急増が危惧されています。昨年10月より一定所得以上の後期高齢者の医療費窓口負担が2割に引き上げられましたが、現役世代の負担軽減効果は不十分と言わざるを得ません。国民の健康を守り、安心の基盤である皆保険制度の持続性を高めるためには、過重な現役世代の負担を軽減し、負担能力に応じて全世代で支えあう制度に転換する必要があります。

また、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、医療提供体制の逼迫やデジタル化の遅れなどの諸問題が浮き彫りになりました。こうした状況を受け、政府は「骨太方針2022」のなかで、医療分野のデジタル化推進を目的として「医療DX推進本部」の設置を明記し、昨年10月に発足しました。本年4月からは、オンライン資格確認が原則義務化され、2024年を目標に現行の健康保険証を廃止し、マイナンバーカードと一体にした「マイナ保険証に切り替える」ことが検討されています。さらに、オンライン資格確認システムを利用した電子処方箋の運用も本年1月より開始となり、医療のデジタル化による医療費適正化、サービスの効率化・質の向上に向けた改革が進められています。

当健康保険組合も、データを活用した効率的で効果的な保健事業をさらに推進してまいります。皆さまにおかれましては、生活習慣病健診や健康づくり事業を積極的にご活用いただき、引き続き疾病予防と医療費の適正化にご協力いただければ幸いです。

結びに、本年が皆さまにとって実り多き一年となりますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。